

どこでも **光窓**

# 太陽とくらす

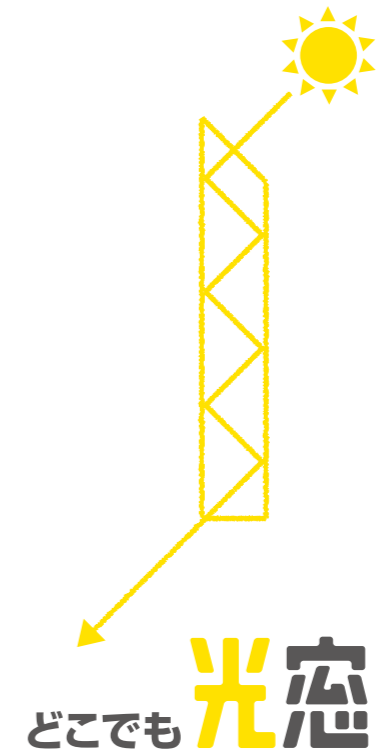
Interview

私たちが「どこでも光窓」

自然光でくらしを元気に

朝の光って、  
きもちいいね

**TK WORKS**  
Beyond Steel



鋼鉄商事株式会社  
建材事業部

**TEL.03-4531-6883**

〒141-0022 東京都品川区東五反田二丁目18番1号  
大崎フォレストビルディング  
FAX. 03-3280-8161

<https://hikari-duct.jp>





**1** すべての空間に  
自然光を、という  
思いから生まれました。

太陽光の明るさや色には、生活リズムを整えるなど、心身に大切な役割があるといわれています。

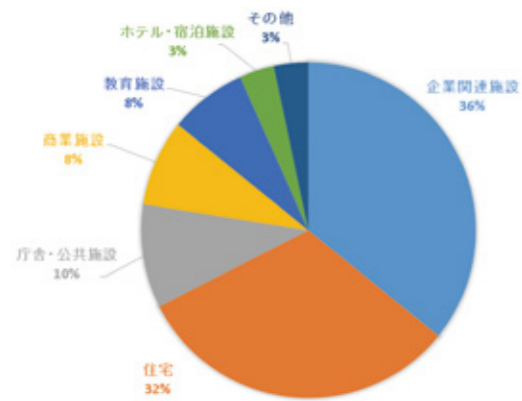
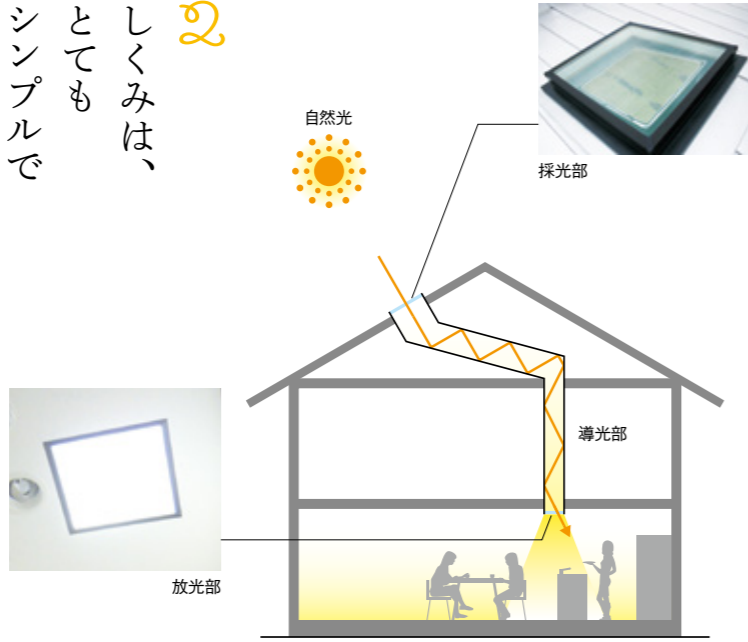
豊かで心地よい自然の光を、より多くの人の暮らしに届けたい。そんな思いから生まれたのが、鋼鉄商事の「どこでも光窓」です。

窓がない、北向きなど、立地や間取りによる採光の悩みにお応えし、明るくすやかな暮らしをお手伝いします。

**2** しくみは、  
とても  
シンプルで  
エコ。

「どこでも光窓」は、内部が鏡面になっているダクトの中に太陽の光を取り込み、必要な場所へと運ぶシステムです。

光の反射だけを利用したシンプルな構造なので、環境にやさしく省エネルギー。メンテナンスフリーで長期間安心してご利用いただけます。



**3** 導入実績は、  
国内120件以上。

2007年の販売開始より、2018年までに導入実績120件以上。庁舎・公共物件や教育施設への採用も増えてきました。光シミュレーション技術の蓄積や製品の改良を行い、より提案の精度や幅を広げています。

住宅向けも多くのお問合せをいただいています。

# ひとには、自然の光。

窓からそそぐ明るい陽の光が、朝を運んでくる。ここから目覚めて、新しい一日のはじまり。

ひとにやさしい自然の光で、暮らしをもっと元気に。

鋼鉄商事の「どこでも光窓」は、すこやかな生活に大切な太陽の光を室内のどこにでも導く、先進の採光システムです。



\*写真はイメージです。





Interview インタビュー

自然光で暮らしを元気に

私たちの  
どこでも **光窓**

- 愛媛県伊予市 翠小学校.....4
- 東京都武蔵野市 成蹊大学6号館.....6
- 愛知県 個人宅.....8
- 山口県 個人宅.....10
- 東京都 個人宅.....11

Pro's Eye

「光窓」で立地の課題を解決、  
緑が育つ明るい空間を。.....12  
若原一貴さん

自然光で楽しむ、  
植物のある暮らし。.....13  
大山雄也さん

About Hikarimado

「どこでも光窓」と創る、  
自分らしく快適なライフスタイル。.....14

シンプルな空調ダクト方式で、  
どこにでも光を運びます。.....16

設置プランのご提案から  
竣工後までトータルにサポート。.....17



# 子どもたちの未来を育む学び舎。生まれ変わった現役最古の木造校舎に、やさしくすこやかな光を運んで。



- ① 改修後に赴任された大城博校長先生。「校舎の向きは普通、南向きですが、本校は東向きなので風がよく通ります。昭和7年に建てた先人に感謝したいですね」
- ② 地域みんなの思い出を刻む美しい校舎。運動会の季節には、玄関脇のギンモクセイの大木が満開になります。
- ③ 見晴らしのいいエコデッキも、子どもたちの提案から生まれました。給食のない日はここで弁当を広げて。
- ④ 南面外壁に設けられた採光部。全長約8mの水平ダクトにより、教室の奥へと外光を導きます。



⑥ 竿縁天井をアレンジして設置された放光部。日中、明るいだけでなく、夜には月の光も差し込むそうです。

地域の思いが結実した  
**エコスクールへの改修**  
 山あいの里に、赤い瓦屋根の木造校舎。昭和の原風景を思わせる昔なつかしい佇まいで、映画やCMにもたびたび登場する伊予市立翠小学校。  
 1932年に建てられた県内最古の現役木造校舎の一角で、児童の学びをすこやかな自然光で支えているのが「どこでも光窓」です。  
 翠小の存在が広く知られるようになったのは、2007年から3年にわたって行われた大規模な改修プロジェクトがきっかけでした。  
 慣れ親しんだ校舎を100年後まで残したいという地域の人々の思いが実を結び、木造校舎としては全国で初めて環境省の「学校エコ改修と環境教育事業」モデル校に採択され、数々の環

境技術を導入したエコスクールへと生まれ変わったのです。  
**「暗いところ探しの音楽室を明るく 居心地のいい場所に 事業にあたっては、愛媛大学をアドバイザーに「光と風と香」という教育テーマが設けられました。**  
 赴任3年目になられる校長の大城博先生に伺うと、改修には児童の意見も取り入れられたとのこと。  
**「当時、外部の専門家も交えたさまざまなワークショップが行われ、子どもたちも環境にやさしい建築などについて学ぶ機会がありました。校舎の中の暗いところや使いづらいところを探したり、アイデアを出し合ったりと積極的に参加していたようです」**  
 旧校舎で特に暗かったのは、建物の奥にある音楽室。階段下の

スペースに面した側は外光が届きにくく、1階なのでトップライトも付けられない状態でした。そこで検討されたのが、光ダクトです。  
 壁からの採光が可能な「どこでも光窓」の導入により、日の当たる南面の自然光が教室の奥まで届くようになりました。  
**「光窓」のある音楽室はランチルームの隣。明るくなったスペースは子どもたちのお気に入りの場所になり、給食が終わると図書コーナーで読書するなど、音楽の授業のないときにも利用する姿が見られるそうです。**  
**自然と一体になった 地域の教育力に支えられて**  
 減少傾向だった児童数も、県外からの移住者の子どもたちなどが加わり、2015年度には19名に。学校見学を機に「翠小で子育てをしたい」と移住を決めたご家族もいらっしやるそうです。  
**「この地域の人と自然の教育力というのはすごいですよ。運動会には保護者が杉の枝を集めて門を作ったり、近所のお年寄りがご自分の孫が卒業されても**

**翠小学校 施工データ**

- 工期  
2009年3月着工～  
2010年2月竣工
- ダクト仕様  
1400mm×300mm  
全長約8m 水平型  
南面から教室奥へ自然光を導入。
- 建物データ  
木造2階建て(1932年建築)  
延床面積 1,296㎡

参観日に足を運んでくださったりと、地域全体で子どもを育てていただいています。夏は玄関にカブトムシ、秋は職員室にトンボと、校舎にいながら自然と触れ合う楽しみもあります。校庭での木登りなど、児童には一生忘れられない体験になるでしょうね」と大城先生。  
 よみがえった学び舎は、未来を担う子どもたちを育みながら次の1世紀に向け歩みを続けています。





環境と共生する、シンプルなくみ。次世代へと受け継がれる新校舎を、やわらかな自然光で照らす「光窓」。



⑤ 日中の廊下に明るい自然光を届ける「光窓」。メンテナンスの必要がないことも評価されています。

↑ 放光部はスリット型



④

①② 現在は成蹊中学・高等学校事務室担当課長の熊崎和宏様と財務部管財課主査の長橋典子様。大学OBでもある熊崎様は「後輩に恥じない建築を」と建替えに力を注がれたとのこと。

③ 屋上に設けた採光部。風雨や外気にさらされない密閉構造です。

④ 「光窓」のしくみを解説する放光部のパネル。



①



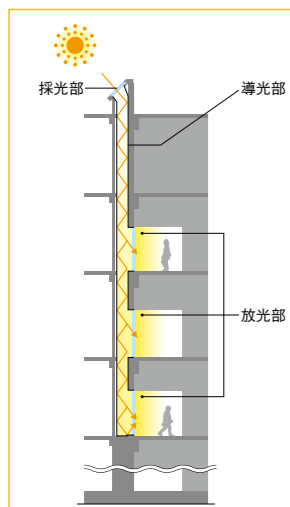
③



②



⑥ ケヤキの緑が美しく映える6号館の佇まい。日射を調整するテラコッタ・ルーバーや自然換気など、随所に環境共生の工夫が施されています。



成蹊大学6号館  
施工データ

- 工期  
2012年12月着工～  
2014年4月竣工
- ダクト仕様  
W1925mm×H525mm  
全長19m  
垂直型1カ所(採光部は屋上、  
放光部は3～5階の中廊下)
- 建物データ  
地上6階・地下2階・塔屋1階  
鉄筋コンクリート造  
(一部鉄骨造・  
鉄骨鉄筋コンクリート造)

「様々な施設を見て感じたのは、省エネなどのしくみはアナログ的でシンプルなものほど持続性があるということでした。光窓は複雑な装置を必要とせず、設備というより建築の一部。いつまでも変わらずに機能し続けるだろうと期待しています」

外光とともに  
安心感も運んで

「光窓」の放光部が設けられたのは、3階から5階の、そのままでは日中も照明が必要な中廊下。6号館を利用される機会

の多い管財課の長橋様は、通るときに外光を見るとホッとすると、

「光窓」の放光部が設けられたのは、3階から5階の、そのままでは日中も照明が必要な中廊下。6号館を利用される機会

「様々な施設を見て感じたのは、省エネなどのしくみはアナログ的でシンプルなものほど持続性があるということでした。光窓は複雑な装置を必要とせず、設備というより建築の一部。いつまでも変わらずに機能し続けるだろうと期待しています」

とおっしゃいます。

「廊下の途中にトイレがあるので、明るいと安心感がありますね。光窓を通して空の様子も感じられますし、気持ちがやわらぎます」

「事業計画がスタートしたのは2010年の秋です。旧6号館は歴史ある本館の隣にあり、学生や地域の方々から親しまれている美しい景観を守りつつ、いかに未来志向の校舎に生まれ変わらせたかを課題としていました。入までの経緯などを伺いました。熊崎様は「後輩に恥じない建築を」と建替えに力を注がれたとのこと。熊崎様は「後輩に恥じない建築を」と建替えに力を注がれたとのこと。熊崎様は「後輩に恥じない建築を」と建替えに力を注がれたとのこと。

「廊下の途中にトイレがあるので、明るいと安心感がありますね。光窓を通して空の様子も感じられますし、気持ちがやわらぎます」

「もうひとつのテーマは、環境への配慮です。これからの時代を考えたとき、自然エネルギーの活用や省エネは欠かせません。設計担当者と一緒に各地の学校施設などを見学し、未来の校舎としてあるべき姿やシステムについて、ひとつひとつ検討してきました」

「もうひとつのテーマは、環境への配慮です。これからの時代を考えたとき、自然エネルギーの活用や省エネは欠かせません。設計担当者と一緒に各地の学校施設などを見学し、未来の校舎としてあるべき姿やシステムについて、ひとつひとつ検討してきました」

「交流を生み出す」をテーマに  
住みたい街ランキングで毎年上位になる人気タウン、吉祥寺。賑わう商業圏の北側に、ケヤキ並木に囲まれた広大な成蹊学園キャンパスがあります。

「交流を生み出す」をテーマに  
住みたい街ランキングで毎年上位になる人気タウン、吉祥寺。賑わう商業圏の北側に、ケヤキ並木に囲まれた広大な成蹊学園キャンパスがあります。

「交流を生み出す」をテーマに  
住みたい街ランキングで毎年上位になる人気タウン、吉祥寺。賑わう商業圏の北側に、ケヤキ並木に囲まれた広大な成蹊学園キャンパスがあります。

「交流を生み出す」をテーマに  
住みたい街ランキングで毎年上位になる人気タウン、吉祥寺。賑わう商業圏の北側に、ケヤキ並木に囲まれた広大な成蹊学園キャンパスがあります。



南面からの採光が不可能な1階に、お気に入りの明るい“縁側”が。家族の団らんを心地よく包む「光窓」。



①「光窓」とS様ご一家。ご家族の生活リズムに沿って、昼は明るく、夜は暗く。  
②隣家(左)との間が狭く、採光の余地がない南面。  
③設置の際に工夫した点などを語られるS様。  
④「縁側」は、お子様たちの読書コーナーに。登校前のわずかな時間にも、ここでよく本を広げているそうです。

駅近の好立地ながら、南側は全く光が入らず

「光がふわーっと入ってきて、晴れたり曇ったり。ここにいるだけでお天気の様子が変わります」二人のお子様遊ぶ明るいリビングで、そう話されるS様ご夫妻。ご家族団らんのひとときを「どこでも光窓」のやさしい光が包みこみます。

一家のお住まいがあるのは、最寄り駅から歩いて数分の市街地。商店街にも近く、以前と生活圏が変わらないという立地のよさが気に入って中古物件を購入されたのですが、一方で密集地特有の問題もありました。

「このあたりは近隣商業地域なので、南側の隣家との距離が1メートルくらいしかなく、1階は窓があっても全く光が入りませんでした。この条件で採光を望むと、吹き抜けか、2階を

リビングにするかの2択しかなかったんです」

建替えも視野に入れながら、実際の1戸建ての例などを見て回ったのですが、2階にデスクスペースができることや年をとったときの階段の上り下りなどを考えると、なかなか決心がつかなかったそうです。

### 第3の選択となった

#### 「光窓」との出会い

採光に悩まれる中、住宅イベントの会場で偶然目にしたのが「光窓」でした。「ハウスメーカーのPRビデオで、間接照明のように使う案が紹介されていて、初めて光ダクトを知りました。わが家に必要なのはより直接的な光でしたが、これなら利用できるかもしれない」

さっそく出展メーカーのサンヨーホームズ様に相談されたS様は、南面の窓に代わる新たな

い位置に設けられています。

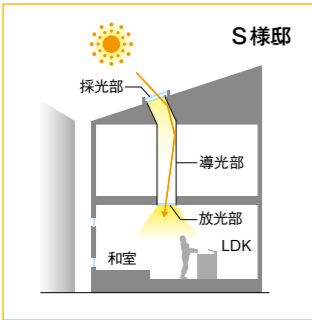
#### 南向きにこだわらず、好きな地域に住める

住まいの一部となって約2年半。日の出とともにゆっくり明るくなり、日暮れとともに暗くなる「光窓」は、ご家族の暮らしにすっかり溶け込んでいるようです。

「ちょうど縁側のような感じで、朝、子どもが先に起きるとその下に座って本を読んだりしています。夏場でも暑くならないし、照明などの光熱費が余分にかからないのもいいですね」と奥様。

S様は、難点のある立地でも満足のいく住まいが得られたことで、費用対効果を実感されているとのこと。

「同じ地域でも南向きの土地は値段が高いですし、その購入に充てる費用を考えると、光窓を設置したほうがコストがかからないと思います。日当たりに難があっても好きな地域に住みたいという場合、これがあれば光を取り込めます。これから土地探しをする人にも選択肢が広がるのではないのでしょうか」



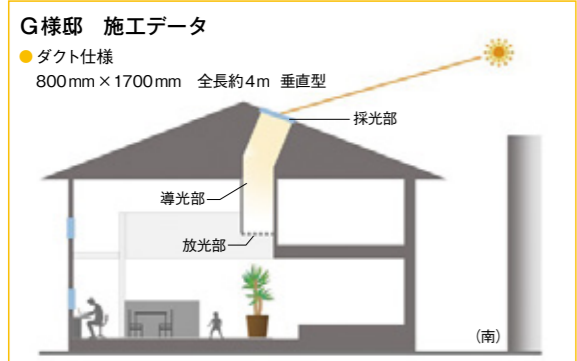
●ご長男(左)とご長女が背にしている壁が、陽の入らない南面。設計当時は「光窓」の模型を使って光の入り具合を確かめるなど、親子で楽しく実験されたそうです。

な採光プランとして「光窓」を選択され、建替えを依頼されたのです。

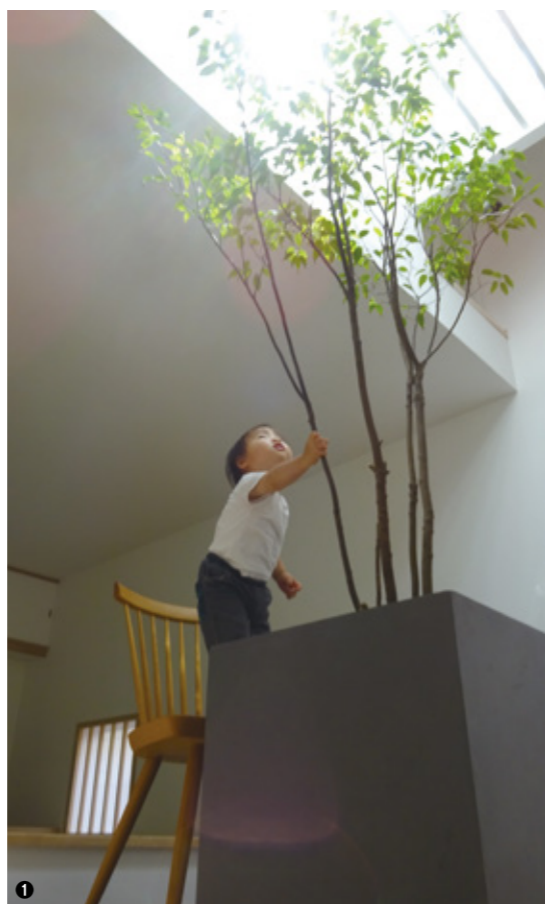
設計にはご夫妻の希望がすみずみまで反映され、放光部はLDKと和室のある1階のほぼ中

央に。通常より約20cm高くした天井高とともに、明るく開放感のある団らんスペースが生まれました。また、採光部は、現在2階建ての隣家が将来的に3階建てになっても、影に入らな





- 1 「光窓」の下で育つ観葉植物の周りはお子様の遊び場。
- 2 冬場12時での西面の外観。
- 3 晴れた日には、ダクトの光と観葉植物で木漏れ日が出来たり、光の位置が変わることによる変化があります。
- 4 中心に「光窓」のある吹き抜けのリビングダイニング。曇りでも日中は電気を点けなくても明るく、開放感があります。



住宅に囲まれた旗竿地でも理想の家を。  
 木漏れ日のある空間をつくり、  
 エコで快適な暮らしを支える「光窓」。



- 1 自然光の気持ちよさについて語られるS様(中央)と工務店の小川様(右)。家に来られた方に「光窓」のしくみを説明すると、一様に驚かれるそうです。
- 2 先代から大切に住み継いでいらっしゃる家屋。
- 3 南面の壁に設けた採光部より、屋根裏のダクトを通して家の中のリビングに光を届けます。



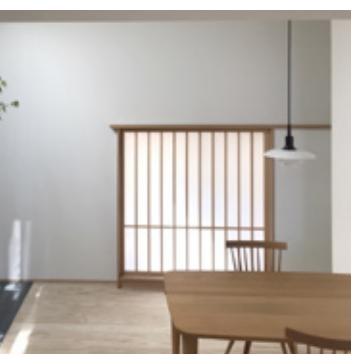
いちばん長く過ごすのに、暗い。  
 陽の入りにくい日本家屋のリビングが  
 「光窓」で明るく気持ちのいい空間に。

「光窓」はともにも明るいんですよ。  
 実際に住み心地のいい家  
 一年中、住み心地のいい家  
 自然の光で植物もすくすく。  
 旗竿地の購入を決めました」  
 比較的価格が安い  
 光ダクトを提案  
 室内でも  
 当たりがよい土地でも  
 リエさんに相談したところ、日  
 当たりがよい土地でも室内  
 を明るくできる光ダクトを提案  
 いただき、比較的価格が安  
 い旗竿地の購入を決めました」  
 一年中、住み心地のいい家  
 自然の光で植物もすくすく。  
 旗竿地の購入を決めました」  
 比較的価格が安い  
 光ダクトを提案  
 室内でも  
 当たりがよい土地でも  
 リエさんに相談したところ、日  
 当たりがよい土地でも室内  
 を明るくできる光ダクトを提案  
 いただき、比較的価格が安  
 い旗竿地の購入を決めました」

「光窓」の提案が可能にした  
 通勤エリアでの注文住宅  
 土地から探し、都内の住宅街  
 に念願のマイホームを建てられ  
 たG様ご夫妻。リビングダイニ  
 ングの「どこでも光窓」が、空  
 間全体を明るく自然な光で照ら  
 しています。  
 共働きの二人が注文住宅を  
 考えたのは、お子様が生まれ、  
 通勤しやすい地域への引っ越し  
 を検討されていたとき。お知り  
 合いからエコハウス研究会を紹  
 介されて気に入って、保育園申請  
 の時期などを考慮してすぐに資  
 金計画を立てたそうです。  
 「ところが、いざ通勤圏で土  
 地を探すと予算的に手が届く  
 のは、駅から遠いところか変形地  
 などで、設計事務所の若原アト  
 リエさんに相談したところ、日  
 当たりがよい土地でも室内  
 を明るくできる光ダクトを提案  
 いただき、比較的価格が安  
 い旗竿地の購入を決めました」  
 一年中、住み心地のいい家  
 自然の光で植物もすくすく。  
 旗竿地の購入を決めました」  
 比較的価格が安い  
 光ダクトを提案  
 室内でも  
 当たりがよい土地でも  
 リエさんに相談したところ、日  
 当たりがよい土地でも室内  
 を明るくできる光ダクトを提案  
 いただき、比較的価格が安  
 い旗竿地の購入を決めました」

間取りが暮らしに合わず、  
 昼間でも電気を点ける生活  
 緑に包まれた郊外の日本家屋  
 に、代々暮らすS様ご夫妻。陽  
 当たり恵まれた住み心地であり  
 ながら、採光には長年お悩みで  
 した。  
 「昔の間取りなので、南側の  
 明るいところに二間続きの客間  
 があり、家族の居間は家の奥。  
 東の窓からは午前中しか陽が入  
 らず、いちばん長く居る部屋な  
 のに、真夏の昼間でも電気を点  
 けていました。天井から明かり  
 を取れないかと思いい、実例をい  
 ろいろ見て回りましたが、新築  
 と違い、屋根に窓を付けるとな  
 ると雨漏りも心配で」  
 決め手は壁面からの採光。  
 雨の日の明るさも体感して  
 そんな中、屋根に穴を開けな  
 い方法があると、工務店の小川  
 様から紹介されたのが「どこで  
 も光窓」だったとのこと。  
 「さっそく実際に使っている  
 という工場の応接室(※KYテ  
 クノロジー周南工場)に見学に  
 行ってみると、雨の日なのに、  
 照明が何もなくとも明るくて驚  
 きました。壁から採光できるな

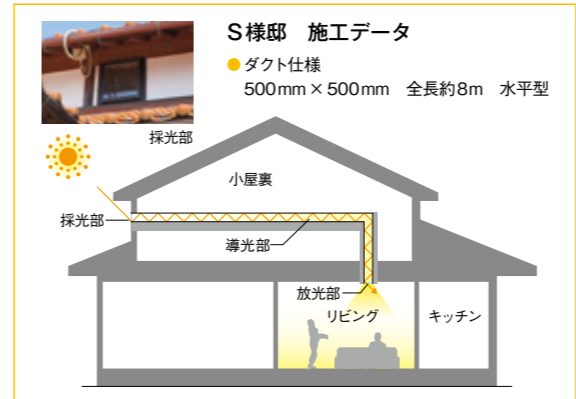
「昔の間取りなので、南側の  
 明るいところに二間続きの客間  
 があり、家族の居間は家の奥。  
 東の窓からは午前中しか陽が入  
 らず、いちばん長く居る部屋な  
 のに、真夏の昼間でも電気を点  
 けていました。天井から明かり  
 を取れないかと思いい、実例をい  
 ろいろ見て回りましたが、新築  
 と違い、屋根に窓を付けるとな  
 ると雨漏りも心配で」  
 決め手は壁面からの採光。  
 雨の日の明るさも体感して  
 そんな中、屋根に穴を開けな  
 い方法があると、工務店の小川  
 様から紹介されたのが「どこで  
 も光窓」だったとのこと。  
 「さっそく実際に使っている  
 という工場の応接室(※KYテ  
 クノロジー周南工場)に見学に  
 行ってみると、雨の日なのに、  
 照明が何もなくとも明るくて驚  
 きました。壁から採光できるな



「エコハウス研究会の『そら  
 どまの家』の仕様で、冬は暖か  
 く、夏は涼しく、とても住み心  
 地がいいです。家自体も真柄工  
 務店さんに丁寧に作っていただ  
 いて、細かいところまで満足の  
 いく住みになりました」

「エコハウス研究会の『そら  
 どまの家』の仕様で、冬は暖か  
 く、夏は涼しく、とても住み心  
 地がいいです。家自体も真柄工  
 務店さんに丁寧に作っていただ  
 いて、細かいところまで満足の  
 いく住みになりました」

東京都 G様邸



「エコハウス研究会の『そら  
 どまの家』の仕様で、冬は暖か  
 く、夏は涼しく、とても住み心  
 地がいいです。家自体も真柄工  
 務店さんに丁寧に作っていただ  
 いて、細かいところまで満足の  
 いく住みになりました」

山口県 S様邸



## 「光窓」で立地の課題を解決、 緑が育つ明るい空間を。

建築家 若原一貴さん



「光窓」を取り入れる利点や住まいづくりで大切にしている  
流儀などについて語る若原さん。

### 「光の明暗」を考えることで 住まいは居心地よく

東京都内の戸建住宅を中心に活躍する建築家の若原一貴さん。都心部などでは土地代が高いことから、狭い敷地で設計することも多いそうです。

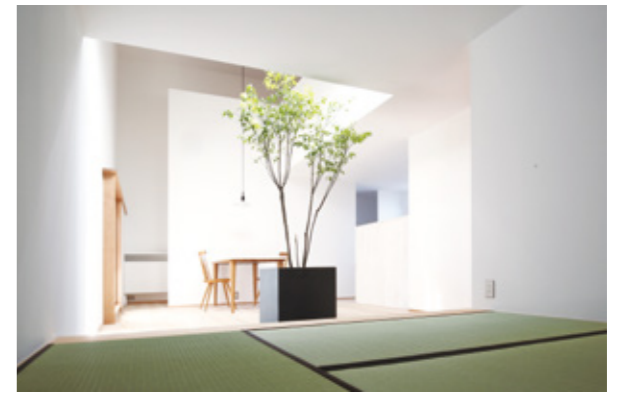
「私手がけている住宅は、ほとんどが建坪10坪（約33㎡）前後で、平面的にゆとりがありません。そのため、立体的に間取りを考え、大きな空間を光の明暗や素材の切り替えによって区切ることで、ゆとりのある空間をつくっています」

小さくても豊かに暮らせる住まいとなるよう、さまざまな工夫を凝らし、窓の数も通常の住宅より少なく設計しているとのこと。

「心地よい空間をつくるためには『光の明暗』が必要です。あちこちに窓を設けると、明るさが均一で、かわり映えのない空間になってしまふ。開口部を絞り、大きな壁面をとることで、明るさに変化をつくり、過ごす場所を選べるようになります」

### 電気を点けなくても 十分な明るさが

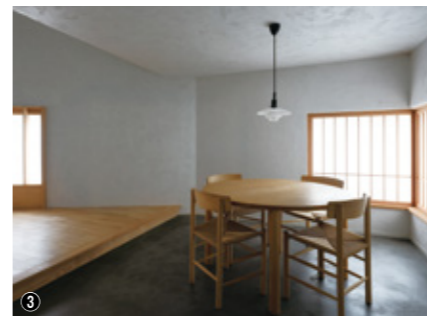
「日野の家」では、ダイニングと和室をゆるやかに仕切るため、室内に観



「日野の家」では「光窓」からの自然光と観葉植物で空間に変化を。

葉植物を配置し、「どこでも光窓」を採用していただきました。

「癒し」の有効なアイテムである植物の緑を、シンプルな空間に置くような設計を試みたくて考えており、「日野の家」でそれが実現しました。観葉植物を置きたいというのは建主の希望でしたが、立地による日当たりの悪さや植物の生育への影響などの課題があった。『どこでも光窓』を採用したことで、この課題を解決でき、明るいダイニングと暗めの和室が植物で仕切られた、非常にいい空間になりました」



② 陰影へのこだわりが感じられる「南沢の小住宅」。



③ 小さな家に大きく豊かな空間を内包した「清瀬の小住宅」。



④ 間取りや素材の使い方、窓のつくり方など、豊かな住まいづくりのヒントを多数紹介した若原さんの著書「小さな家を建てる。」（エクスナレッジ）。

られた方々にもとても印象的だったようです。

「玄関から入って、まず目に入るのが『どこでも光窓』の光と植物なので、インパクトは非常に大きかったですね。見学イベントを何回か行いましたが、電気を点けなくても十分な明るさが確保できていることに、みなさん大変驚いていました」

## 自然光で楽しむ、 植物のある暮らし。

デザイナー 大山 雄也さん



自身のご自宅も密集した都心部にあり、「光窓」は自分が欲しいと思った、という大山さん。

### 雨の日の 明るさに驚き

インドアグリーン分野で幅広く活動されている大山雄也さんにとって、「光」は植物の生育に欠かせない最も大切な条件の一つ。外光が入りにくい屋内では、必要な照度を補うために照明器具の調節をしたり、配置を変えるなど、いろいろな苦勞があるそうです。それだけに、初めて「どこでも光窓」を見たときは、自然の力にあらためて衝撃を受けたとのこと。

「外は雨なのに、ショールームの光窓がまるでスポットライトのように明るくて、率直に驚きました。曇っていても太陽光のパワーはこんなにすごいのかと」

この出会いをきっかけに、大山さんがアレンジした観葉植物と「光窓」のコラボレーションがスタート。直射日光と違い、「観葉植物全般にちょうどいい照度」とのこと。半日陰を好む植物がショールームにいきいきとした彩りを添えています。



① 「どこでも光窓」ショールーム（エコライフプラザ）で育つ、大山さんデザインの観葉植物。

### インテリアとしても 魅力のあるダクト

ご自身のブランド「PIANTAXSTANZA（ピアンタ×スタンツァ）」で多彩なグリーンプロダクトを創作するほか、庭園デザインなども手がける大山さんは、外に庭が作りにくい都市部でこそ「光窓」が活用できるとのこと。

「外光を好きなどころに導ける利点を生かして、住宅の1階の半分を土間にして庭にしたり、キッチンで野菜を育てるのもいい。最近では手間のかからない多肉植物も多いので、太陽の光があれば最適です。子育てなどで外に出る機会の少ない方



② 入り口を彩る植物の濃淡が美しいショップは、洞窟をイメージしてリノベーション。



③ 季節の植物を絵画のように楽しめるオリジナルの「マイ・ギャラリー」。



④ 照明器具の照度などに気を使うという、屋内栽培のグリーン。

にも、家の中に植物のある暮らしをぜひおすすめしたいですね」

また、実用性だけでなく、空間を演出するアイテムとしても「光窓」に魅力を感じるそうです。

「古い建物のリノベーションなどでは、天井を抜いて、あえて配管を見せるのがスタイリッシュですが、光窓もメタリックなダクトを剥き出しにしてインテリアの一部にしても面白いと思います。構造自体はシンプルなもので、使う側のアイデアで可能性が広がるのではないのでしょうか」

大山 雄也  
おおよま・ゆうや

東京農業大学造園学科卒業。戸建て住宅の庭から大型商業ビルの屋上庭園まで、様々な空間のグリーン演出等を手がける。2012年にはインドアグリーンブランド「PIANTAXSTANZA（ピアンタ×スタンツァ）」を立ち上げ、植物に新たな価値をプラスしたプロダクトを開発。「内神田豊島屋ビル屋上庭園」で「2008年屋上壁面技術開発コンクール入賞（国土交通省主催）」、京王永福町駅ビル屋上庭園「ふくにわ」で「2012年みどり香るまちづくりコンテスト入賞（環境省主催）」など受賞多数。

若原 一貴  
わかばら・かずき

若原アトリエ 代表／一級建築士 日本大学芸術学部卒業。横河設計工房へ入社し「余白の家」及び「環境科学国際センター」を担当。2000年株式会社 若原アトリエ設立。2019年日本大学芸術学部准教授、エコハウス研究会理事就任。2003年中国南京にて国際設計コンペ最優秀デザイン賞、2008年日本木材青年団体連合会主催第11回 木材活用コンクール部門賞（第一部門）、2012年「hope&homeアワード」受賞、2017年第34回「住まいのリフォームコンクール優秀賞」等、受賞多数。



# 「どこでも光窓」と創る、 自分らしく快適なライフスタイル。

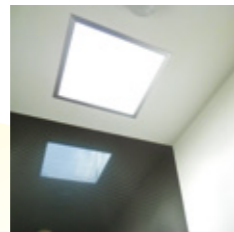
立地などによる採光の悩みにお応えし、自然とのつながりを感じる、心やすらぐ暮らしをカタチにします。

## 住宅から店舗、オフィスまで、自然光でいきいきと心地よい空間に。

屋上や外壁から離れた場所にも効率よく自然光を導くことで、建物の奥でも、空の様子や季節の移ろいを感じられる、気持ちのいい空間が生まれます。

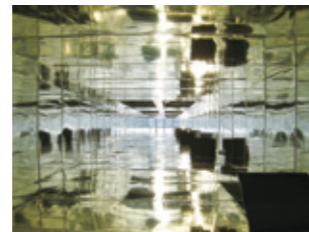
### ③ 放光部

室内へ光を放ちます。



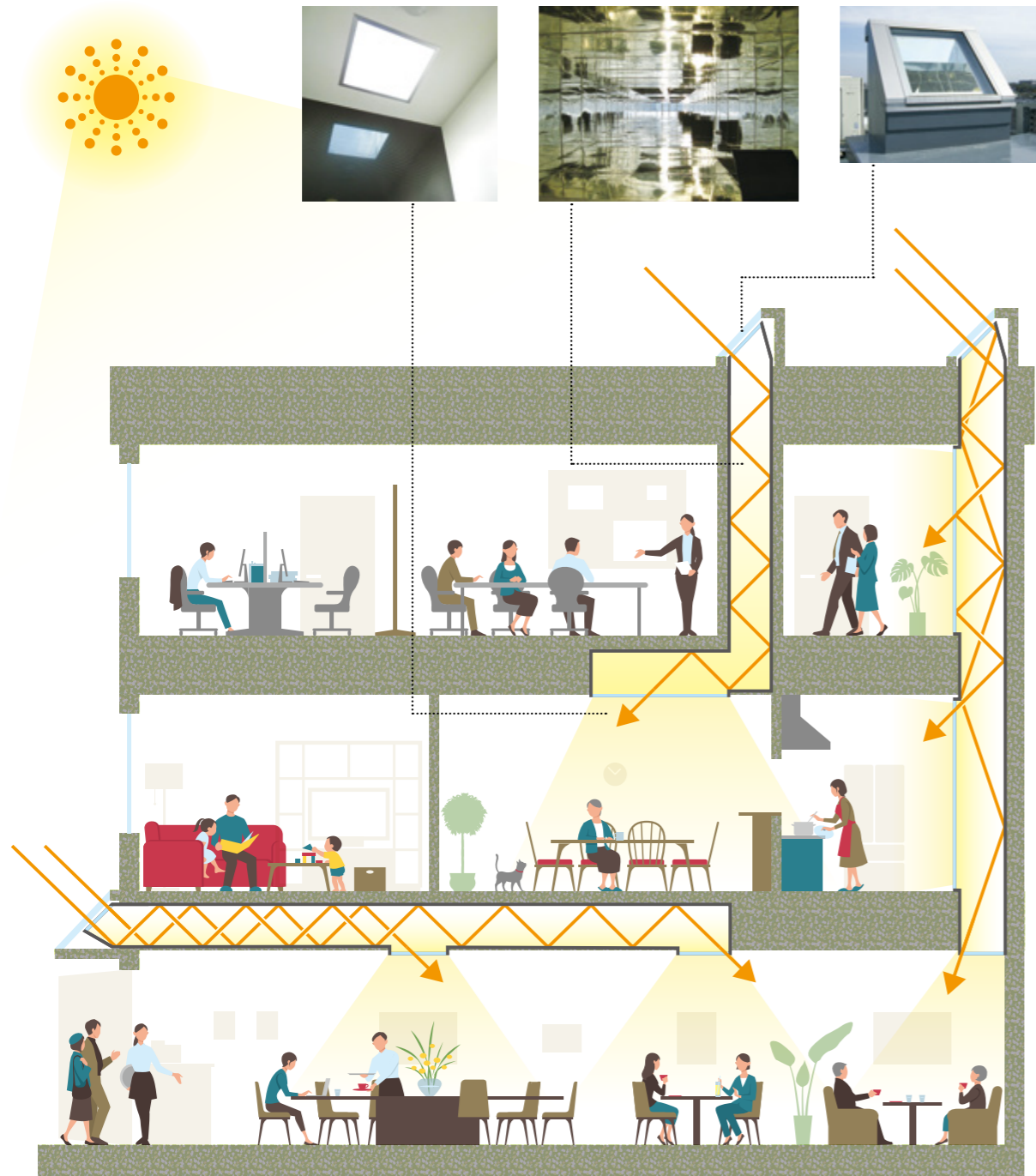
### ② 導光部

反射させて光を導きます。

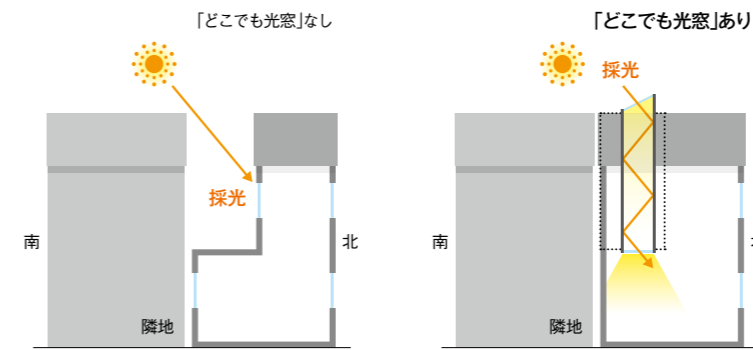


### ① 採光部

自然光(太陽光)を取り込みます。



「どこでも光窓」により、床面積を減らすことなく採光が可能に。



採光しにくい土地でも、思い通りの住まいを。  
南面に隣地の建物が接している場合など、採光のためのスペースを確保しようとする、住宅プランが限られてしまうことも少なくありません。  
「どこでも光窓」なら、方位や間取りを自由に設計しながら、必要な場所に自然光を取り入れることができます。

身だしなみも自然な色味でチェックできます。

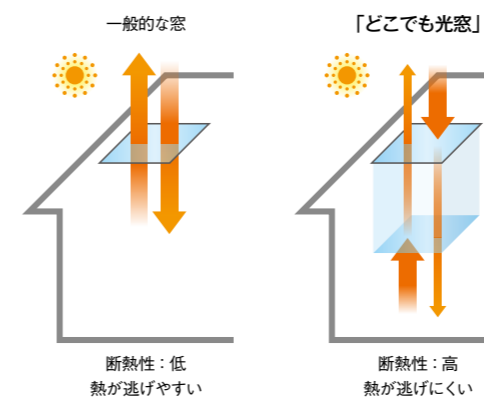


洗面所に使用した場合の光の色味の比較

■ 天候の変化も感じられます。  
曇りや雨の日には、屋外の照度に応じて光量も変化します。晴れの日と比べると  $\frac{1}{5}$  程度の明るさになりますが、真っ暗にはなりません。  
太陽の光には、人工照明にはない明るさや色味があり、近年の様々な研究から生活リズムの維持などにより働きがあることが分かっています。  
自然なゆらぎを持ち、一日の時間帯や天気によっても変化する太陽光。その豊かな恵みを生かし、すこやかに潤いのある環境づくりをお手伝いします。

自然光ならではの  
恵みをどこでも。

冷暖房にかかる電気代も抑えられます。



日中(晴天時)の  
電気代を節約。



電気を問わず、自然光の反射だけを利用した採光システムなので、メンテナンスの必要もなく、維持費がかりません。  
また、日中は照明を点けなくても明るく、優れた断熱性により冷暖房費も抑えて省エネをサポート。人にも環境にもやさしい暮らしを実現します。

メンテナンスフリーで、  
明るくエコな生活。

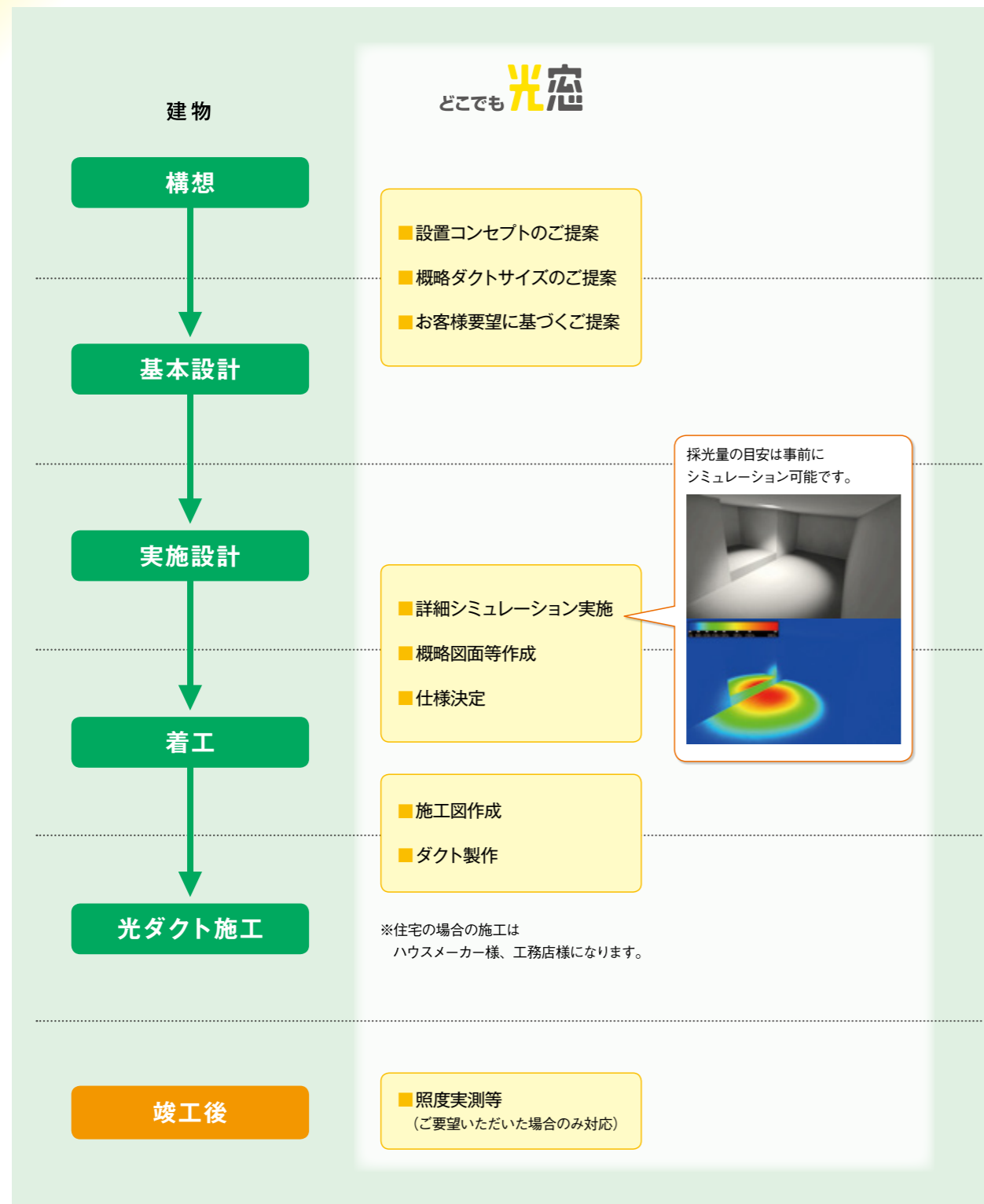


設置プランのご提案から  
竣工後までトータルにサポート。

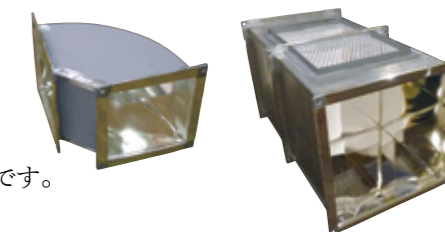
シンプルな空調ダクト方式で、  
どこにでも自然光を運びます。

「どこでも光窓」は、建物の構造や外装・内装に関わるシステムですので、  
建築計画の初期段階から導入をご検討ください。

※計画後期でも設置可能な場合がございますので、  
お気軽にお問い合わせください。



### 高反射鏡面材による導光部



光ダクトは、設置プランや建物構造に合わせて加工・製作します。  
空調ダクトと同様の形状で、特別な工事を必要とせず、取付けも容易です。

### 窓が設置できない建物のコア部分など、様々なスペースの自然採光に対応。

停電時でも日中の明るさが確保でき、災害対策としての効果も期待できます。



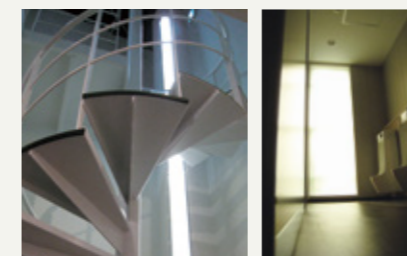
エレベーターホールの「光窓」天井



廊下の「光窓」天井

#### ビルの設置例 (放光部)

外光の届かない建物の中心部分や中廊下、地下室などに。共用スペースが明るくなり、オフィス環境の向上にも役立ちます。



トイレの「光窓」スリット

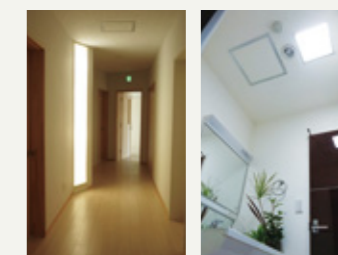


階段の「光窓」スリット



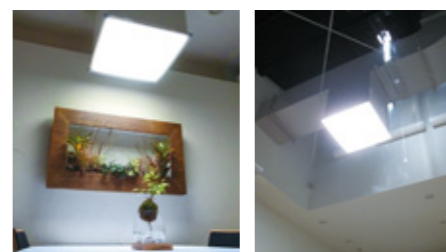
#### 住宅の設置例 (放光部)

リビングダイニングや洗面所、廊下など、ご家族の空間を自然光で心地よくライティング。天井だけでなく、壁のスリットからの放光も可能です。



### インテリアの一部としてデザイン性豊かな演出も。

放光部には、アクリル板またはガラス+窓用フィルムを使用。乳白色・クリア・マットタイプなど、インテリアに合わせて選べます。また、ダクトの素材感を生かしたファクトリー風の演出や、観葉植物との組み合わせなど、通常の照明器具にはない空間デザインも楽しめます。



### 外装に合わせて光ダクトを製作できます。

屋根や壁面に設置する窓の形状に合わせて、光ダクトの採光部を製作することが可能です。

